

平成 17 年のサケ来遊状況 (11 月 20 日現在)

独立行政法人さけ・ます資源管理センター

1．全国のサケ来遊状況

平成 17 年 11 月 20 日現在の全国のサケ来遊数は、沿岸漁獲数 5,956 万尾、河川捕獲数 499 万尾、計 6,455 万尾（前年同期比 93%、過去 5 年同期比：113%）に達しています（図 1）。

地域別には、北海道域は 5,603 万尾（前年同期比 93%、過去 5 年同期比：115%）と昨年に引き続き高い水準の来遊となっています。本州では、太平洋域は 776 万尾（同：95%、101%）と近年の平均的水準となっていますが、日本海域は 77 万尾（同：95%、142%）と過去最高の来遊となった昨年並の非常に高い水準となっています（図 2、3）。

2．時期別の来遊状況

旬毎の来遊数の推移を過去 6 年間の傾向と比較しますと、北海道域では例年とほぼ同様な 9 月下旬をピークとする単峰型の来遊パターンとなりました。本州太平洋域では例年 10 月下旬と 11 月中旬～下旬にピークを持つ双峰型の来遊パターンを示しますが、本年の前半のピークは例年よりも 1 旬早い 10 月中旬に形成されました。後半のピークが遅い年の来遊数が多い傾向にあり、今後のピーク形成時期が注目されます。本州日本海域では、安定して 10 月下旬と 11 月中旬～下旬にピークを持つ双峰型の来遊パターンを示しますが、本年も同様のパターンが認められています。（図 4）。

旬毎の来遊数の推移を累積来遊割合として表すと、年毎に多少の変動があるものの、地域毎に特有のパターンが認められます。11 月中旬における各地域の累積来遊割合を過去 6 年間の平均で見ると、北海道域では 99.4%、本州太平洋域では年変動が見られるものの 63.8%、本州日本海域では 65.2%に達することが判ります（図 5）。

北海道域はすでに漁期終盤を迎えており、最終的には 5,630 万尾程度、過去 5 番目の来遊数になると考えられます。本州域について、過去 6 年間の時期別来遊パターンから考えられる今年の来遊数は、太平洋域は 1,200～1,300 万尾程度、日本海域は 110～120 万尾程度と考えられます。

3．年級群別(生まれ年別)の来遊状況

11 月上旬までに当センターが北海道域の河川で年齢組成を調査した結果によると、5 年魚である平成 12 年級群は近年の中では平均的な資源量であると推定

されましたが、4年魚である平成13年級群は、4年魚段階までの比較では平成11年級、平成5年級に次ぐ大きな資源量であると推定されています。

従って、今年の豊漁は平成13年級群の4年魚がもたらしたものと言えそうです（図6）。

本州域の資源モニタリングはまだ解析が進んでいませんが、岩手県水産技術センターが発表した11月17日現在の秋サケ回帰情報によると、前年同期と比べて、オス・メスともにやや3年魚の割合が高く、5年魚が低い傾向にあると報告されており、北海道域と同様に4年魚の比率が高くなっているようです。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/>

4. 体サイズ

北海道域の河川で旬毎の年齢組成を調査した結果から、早い時期は大型の5、6年魚の比率が高く、遅くなると小型の3、4年魚の比率が高くなっていく様子が判ります（図6）。また、前述した岩手県水産技術センターの秋サケ回帰情報によると、過去3年間の内、平成14年と平成16年の河川捕獲魚の年齢組成は、漁期の前半から後半にかけて大型の5年魚の比率が高くなっていたことが報告されています。

このことから、サケの平均体重が時期的に変化するの、回帰時期の年齢組成の変化に伴うものであると言えます。

サケの漁獲尾数と漁獲重量から求めた1尾当たりの平均体重（雌雄込み）の時期別推移を見ると、地域毎に特有のパターンが認められます。北海道域では漁期当初の魚体は非常に大型ですが、徐々に小型化していき、漁期の終盤に若干大型化する傾向が見られます。本州太平洋域および本州日本海域では、漁期当初はやや大型ですがすぐに小型化した後、漁期の後半にかけて非常に大型化する傾向が見られます。

今年の平均体重は各地域とも例年と同じ傾向で推移していますが、近年の中では小型で推移しています。（図7）。

北海道域の産地市場に水揚げされた10月までのサケの調査結果から、体サイズの年齢毎の変化を見ると、漁獲の主群である4、5年魚の体長が雄ではそれぞれ昨年より減少、昨年と同等であり、雌ではともに昨年より減少していましたが、体重では雌雄ともに若干増加していました。

魚の太り具合を表す肥満度（体重(kg) ÷ 尾叉長³(mm) × 1000）を比較すると、昨年は肥満度の低い痩せたサケが多いことが特徴的でしたが、今年の10月までの調査結果では肥満度が例年並みに回復していることが判りました（図8）。

図1 全国のサケ来遊状況
(平成17年は11月20日現在)

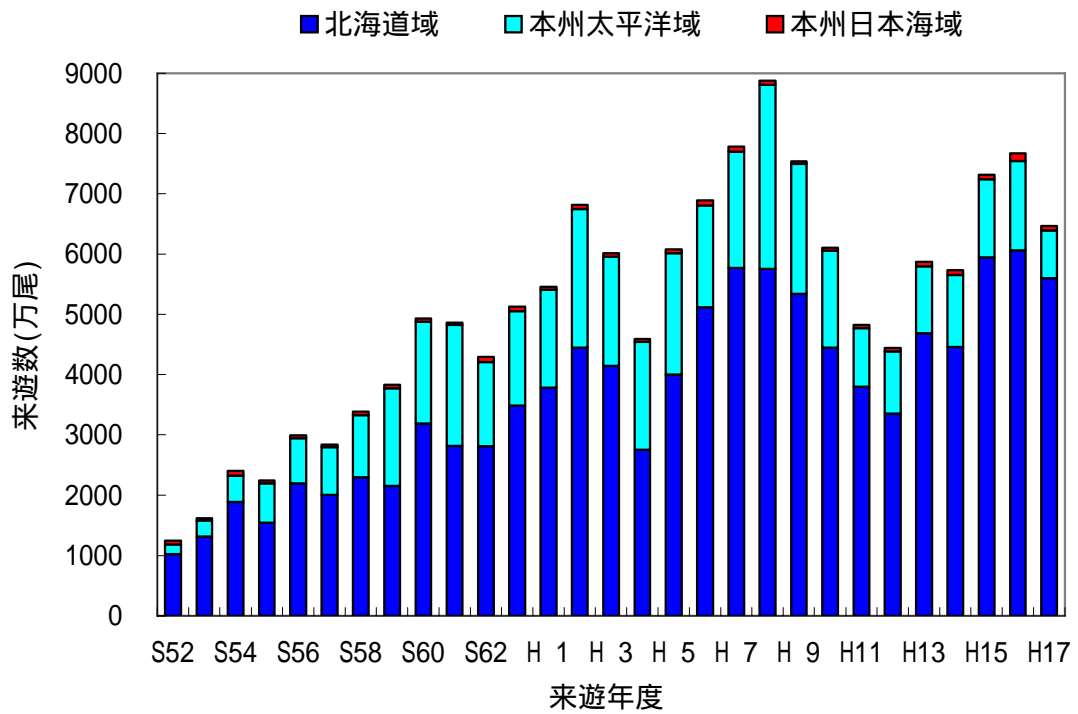
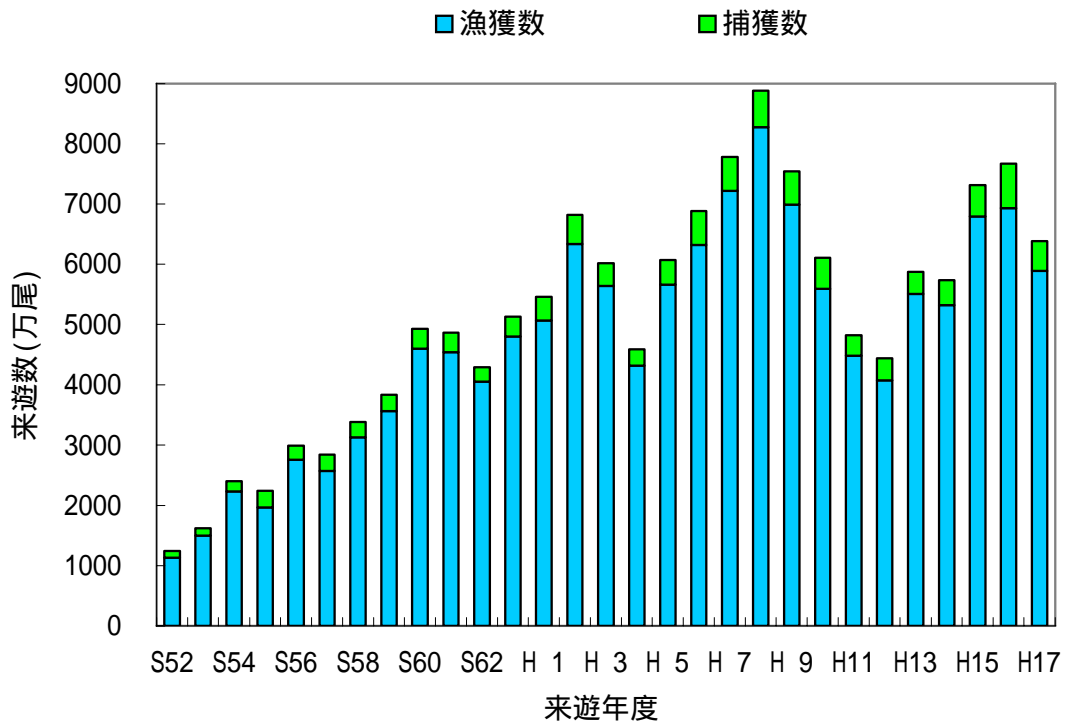


図2 地域別のサケ来遊状況
(平成17年は11月20日現在)

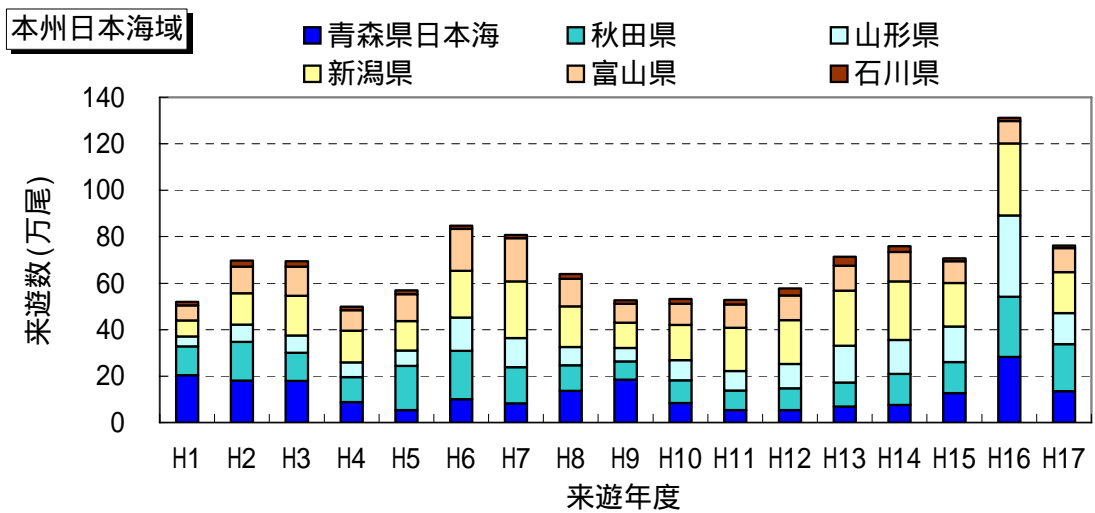
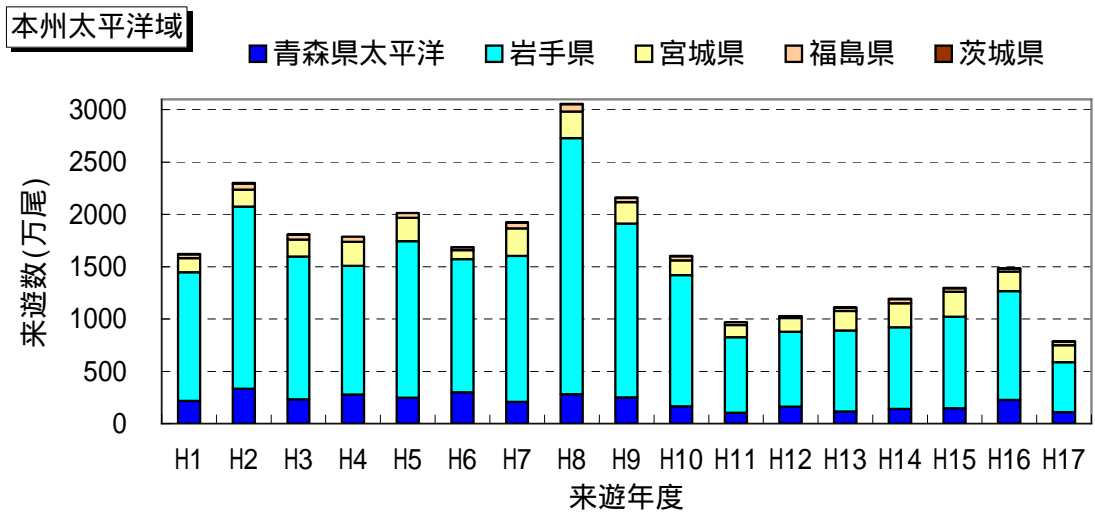
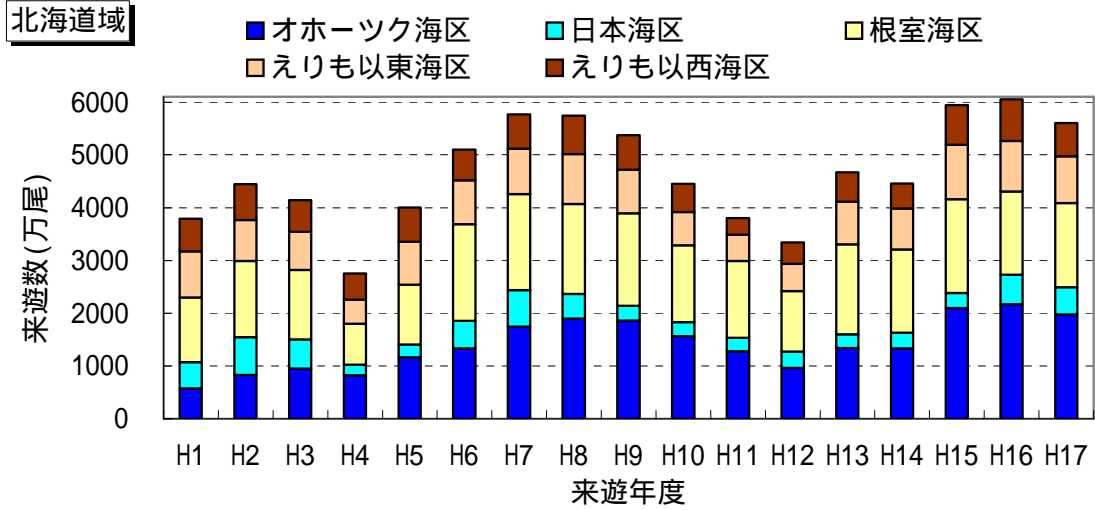


図3 サケの累積来遊状況
(平成17年は11月20日現在)

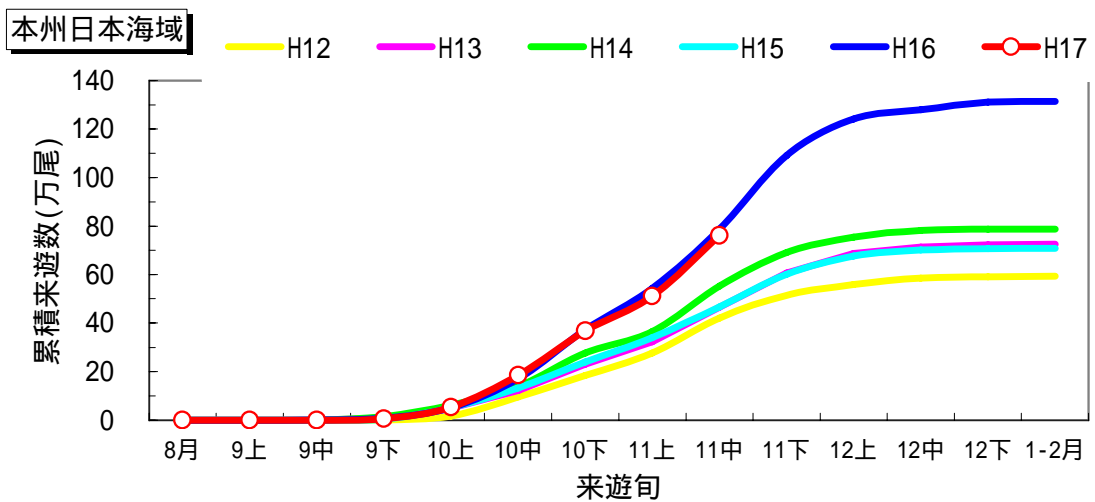
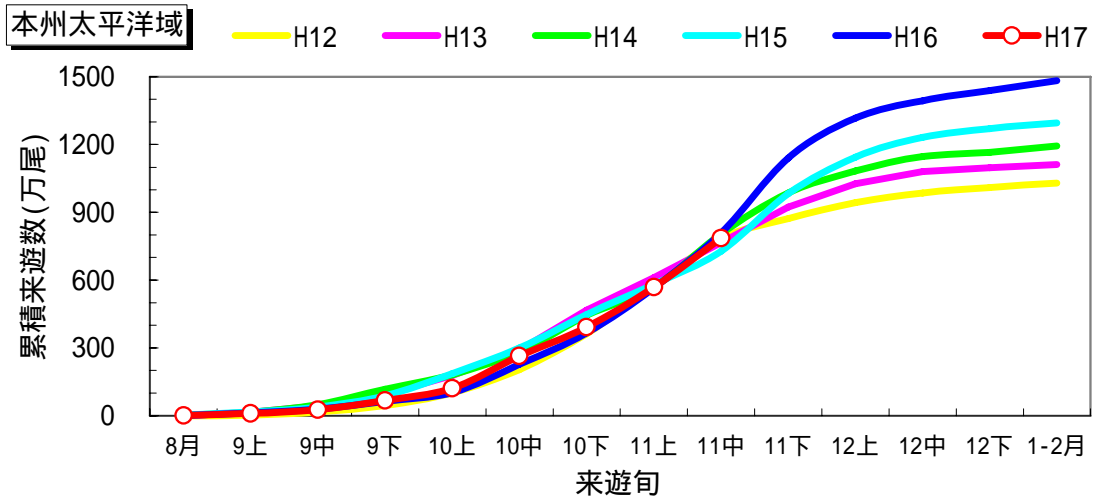
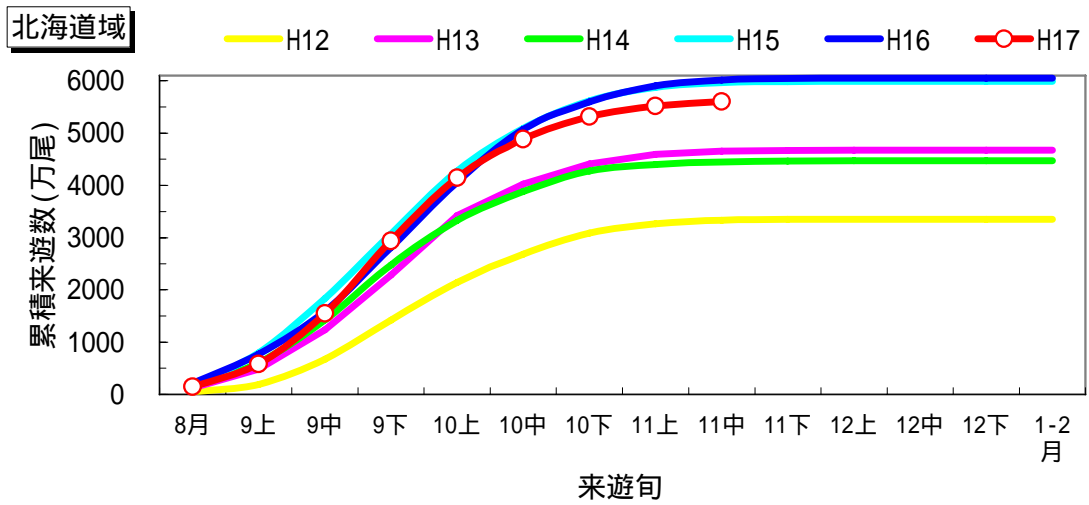


図4 サケの時期別来遊状況
(平成17年は11月20日現在)

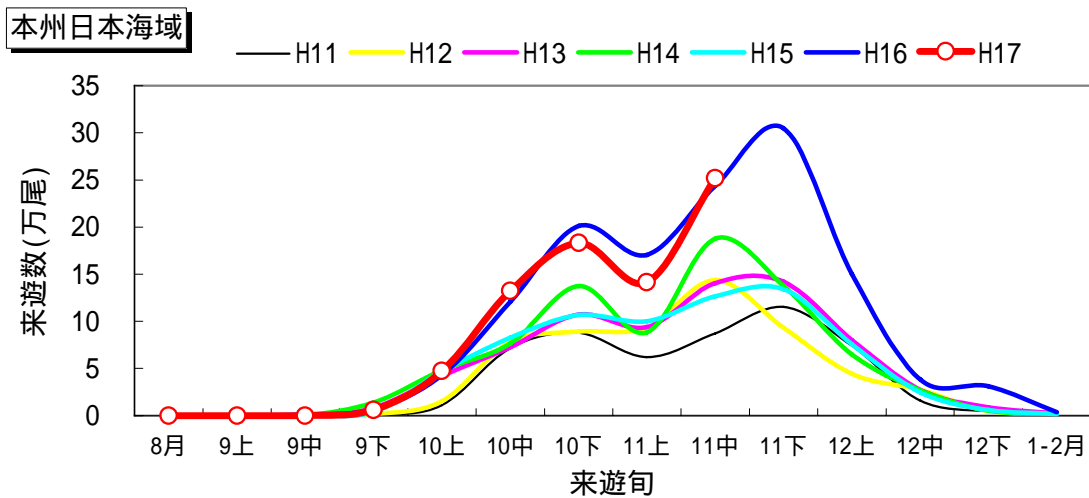
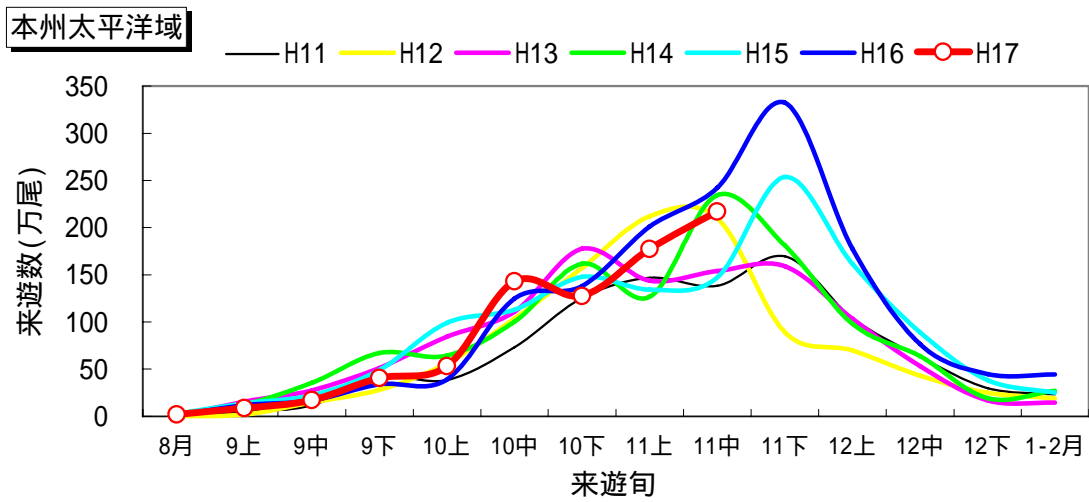
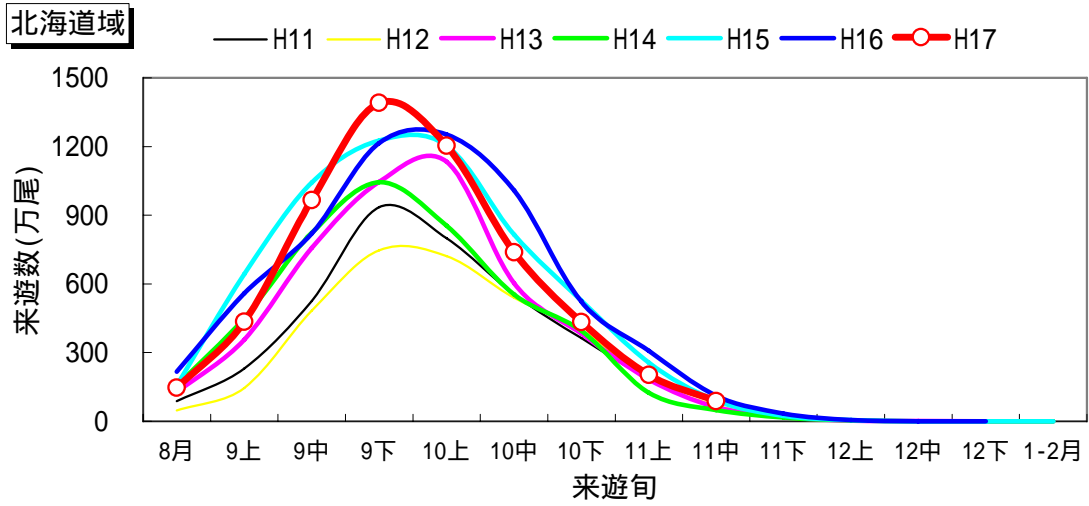


図5 サケの累積来遊割合

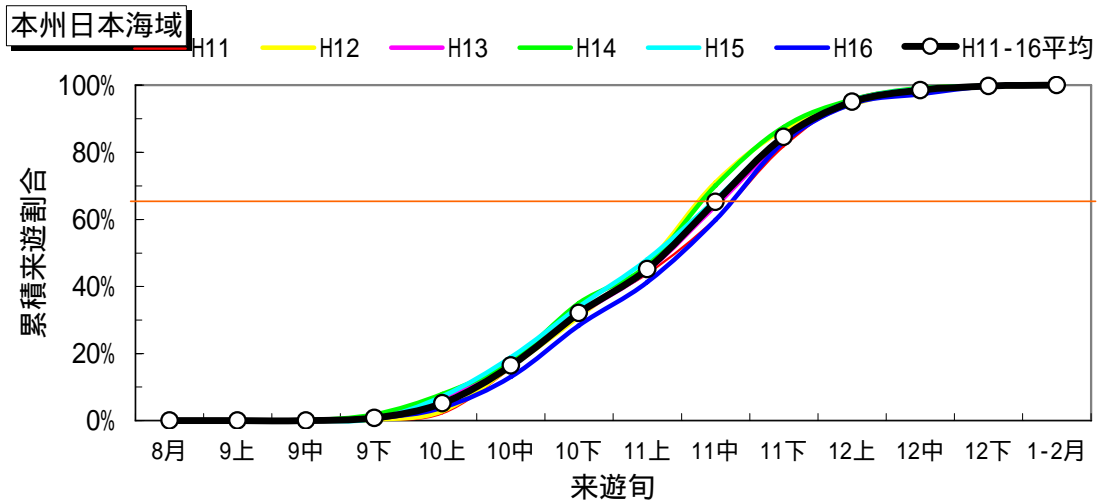
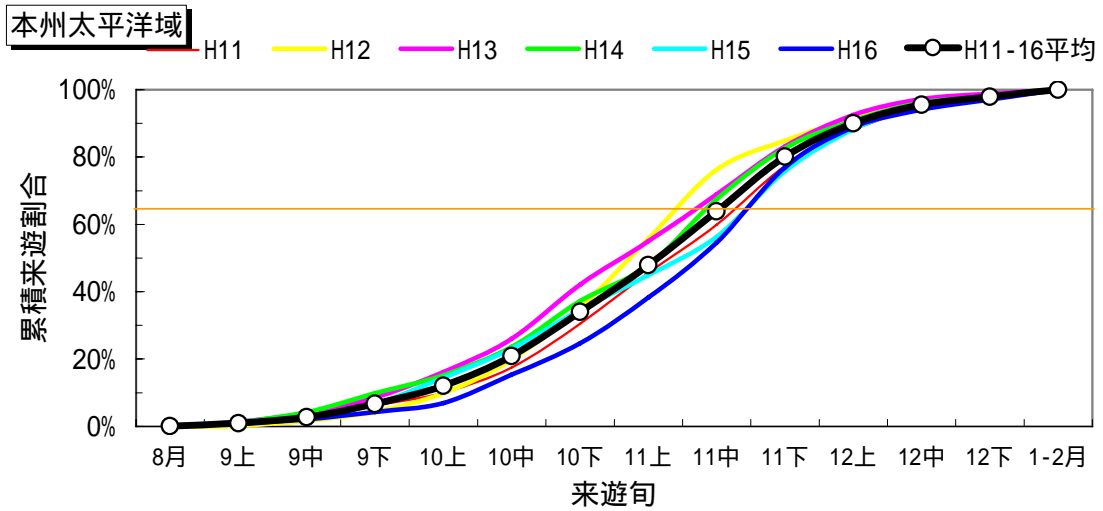
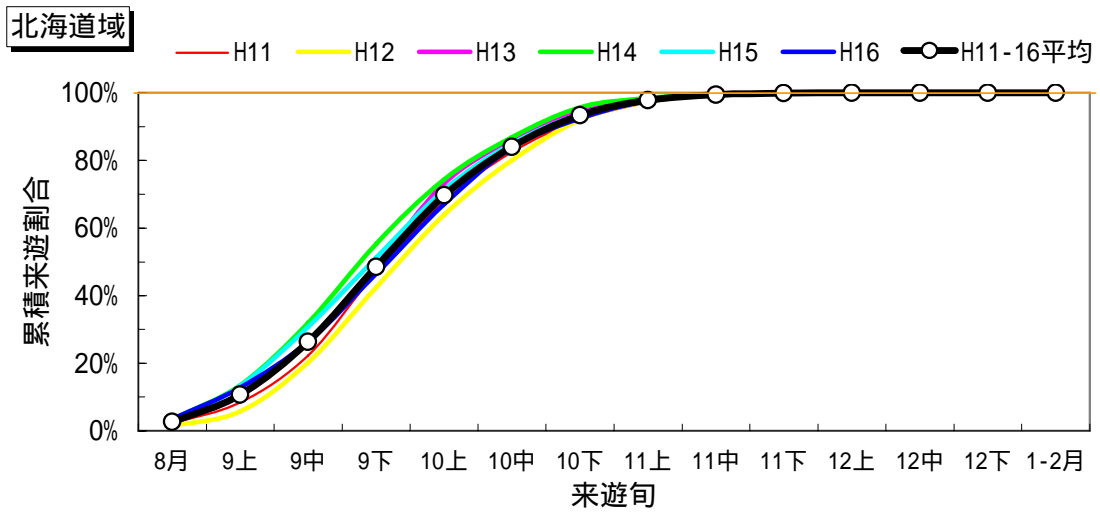


図6 北海道域の年齢組成の推移

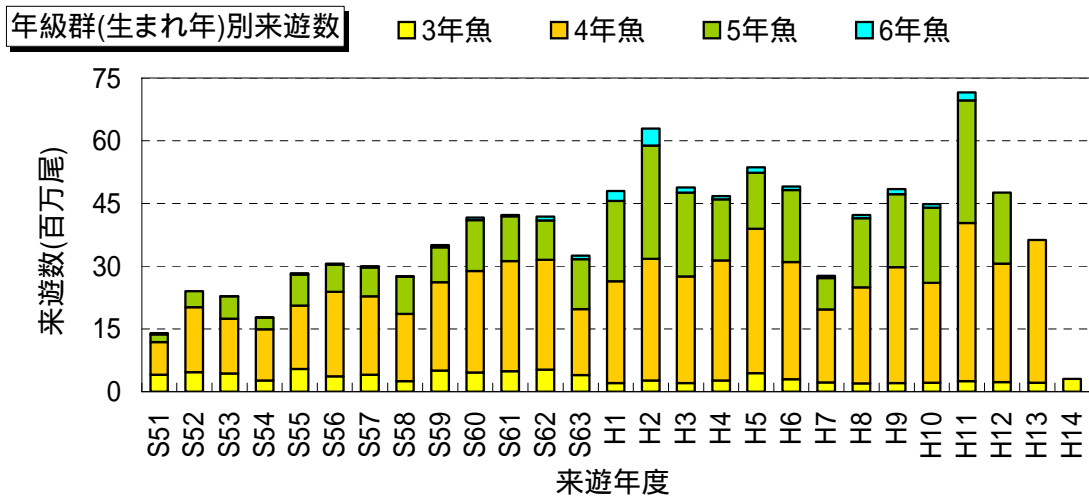
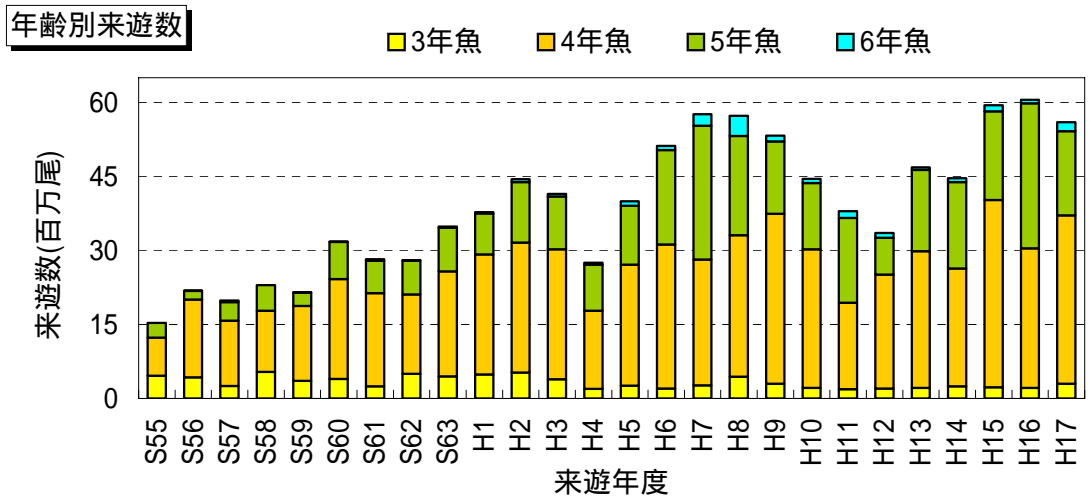
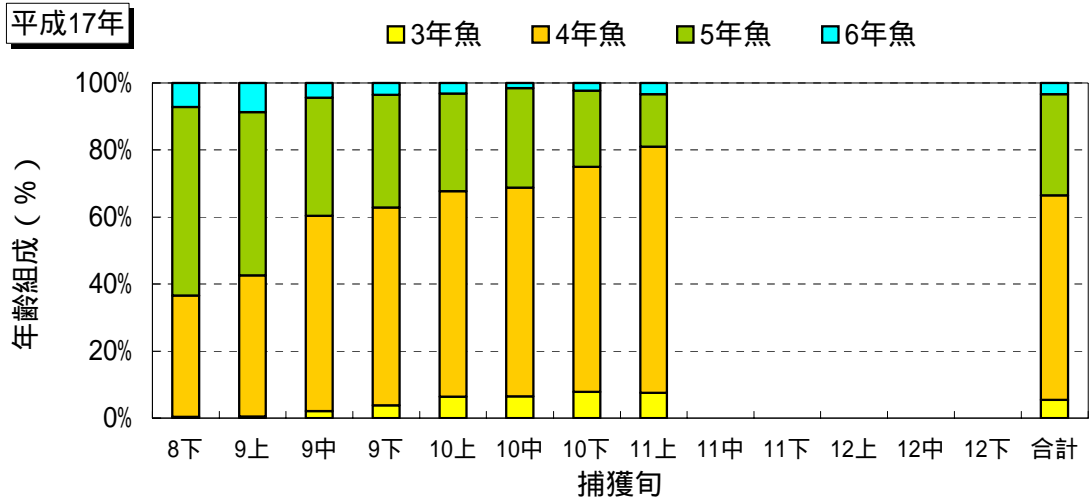


図7 沿岸漁獲サケの平均体重
(平成17年は11月20日現在)

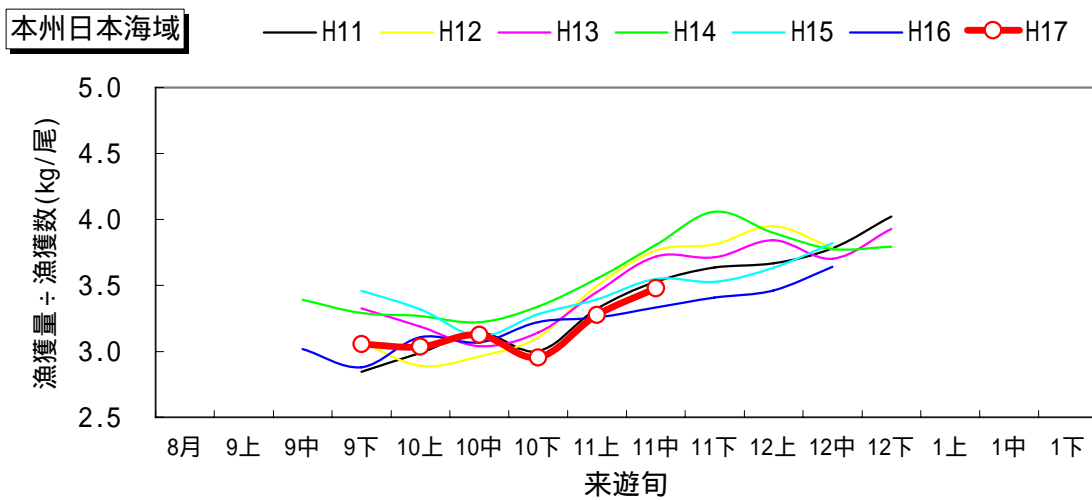
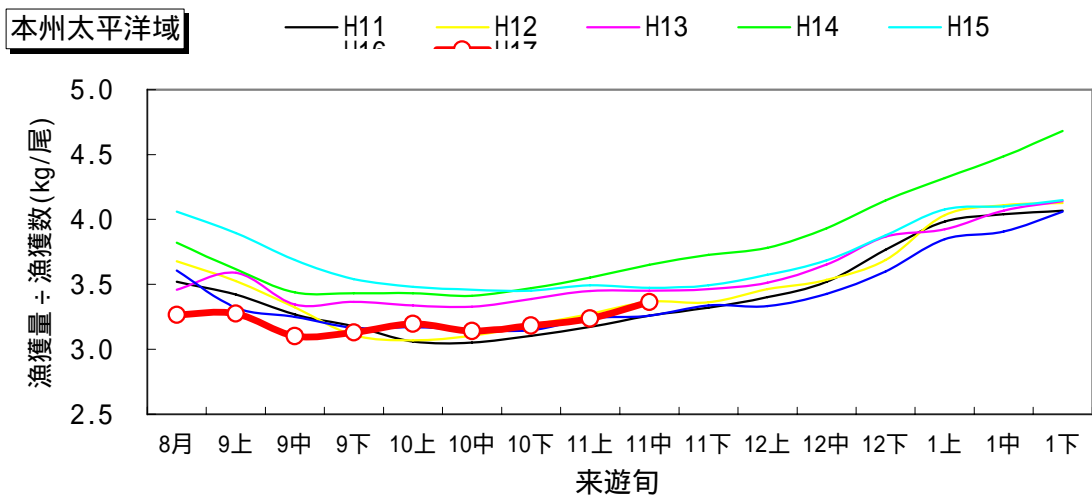
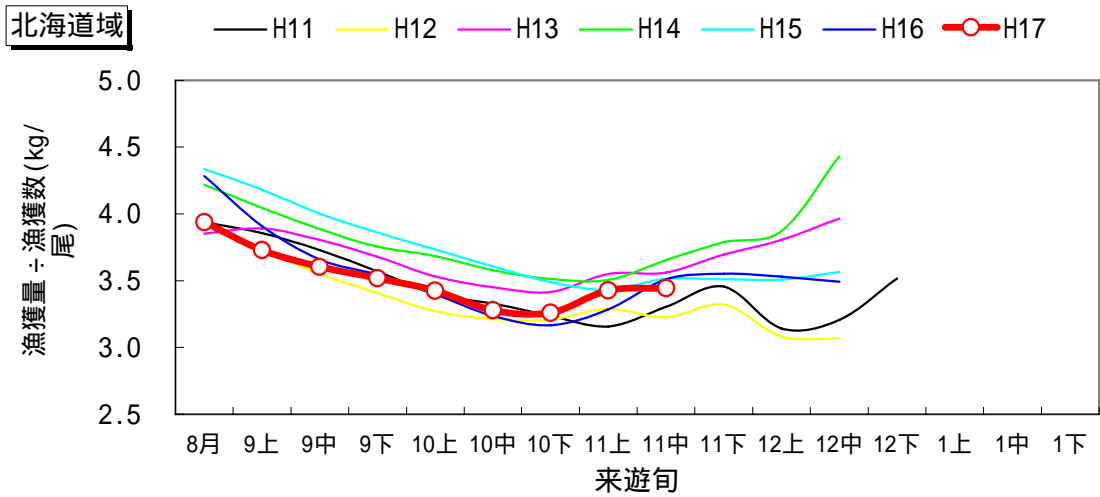


図8 北海道域の沿岸漁獲サケの体サイズ

